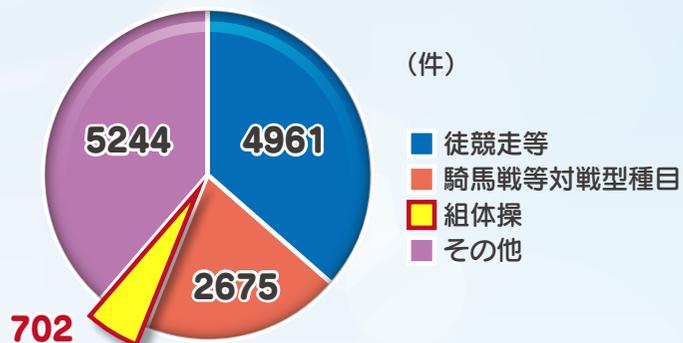


組体操による事故を防ぐために!

体育的行事中（運動会・体育祭）の災害発生状況（小・中・高・高専）（平成27年度）



組体操による事故事例

（事例は災害共済給付データベースより）

運動会練習中、組体操で倒立の練習をして、思い切り足を振り上げたところ補助の児童が支えきれず、そのまま転倒し、右肘辺りを強打した。

（小6・男子）

運動会全体練習で、組体操の練習をしていた際、上に乗っていてバランスを崩し、倒れる時に左手を下にした状態で落ち、左手首を痛めた。

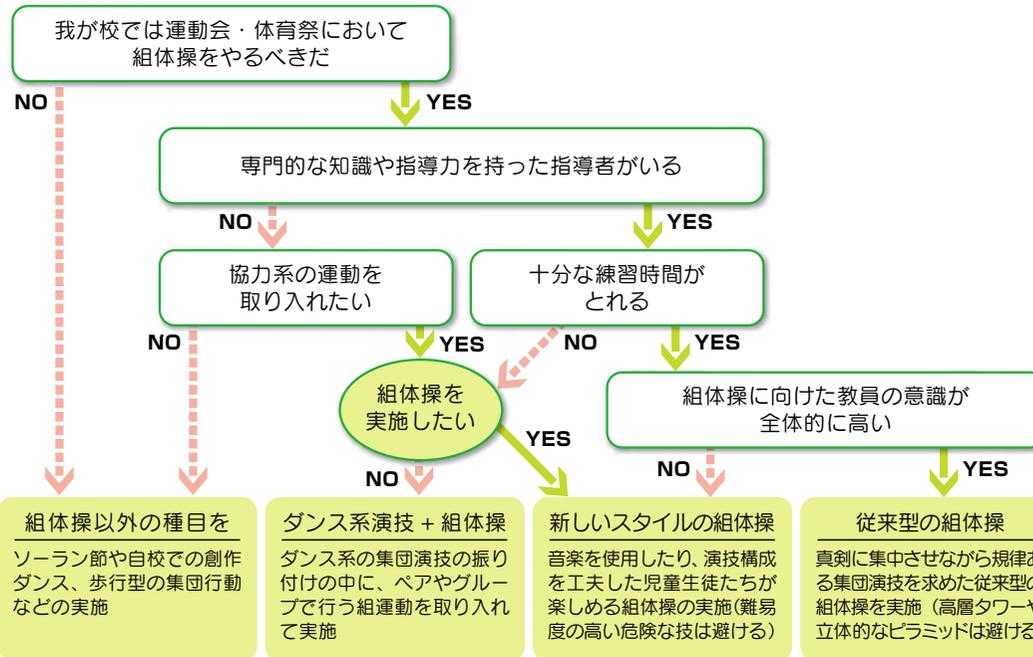
（中3・男子）



事故防止の留意点

- 組体操を実施するねらいを明確にすること。
- 生徒の習熟状況に応じて、活動内容や学習計画を適切に見直すこと。
- タワーやピラミッドなどの大きな事故につながる可能性がある組体操の技については、確実に安全な状態で実施できるかどうかを確認し、できないと判断される場合には実施を見送ること。
- 小学校においては、体格の格差が大きいことに鑑み、危険度の高い技については慎重に選択すること。
- 段数の低いタワーやピラミッド等でも死亡や障害の残る事故が発生していることから、具体的な事故の事例、事故になりやすい技などの情報を現場で指導する教員に周知徹底すること。

方針などについて学校全体で共通理解を図る



平成28年度スポーツ庁委託事業 スポーツ事故防止対策推進事業 「体育的行事における事故防止事例集」より

組体操の安全に配慮した指導例

3人組の2段タワーの指導法

平成28年度スポーツ庁委託事業 スポーツ事故防止対策推進事業 「体育的行事における事故防止事例集」より

注意点

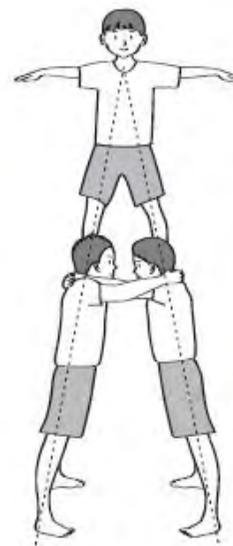
- 土台の2人は、同じくらいの身長のある同士を組ませる。
- 土台は、お互いの顔を見合わせるようにし、背中を真っ直ぐ立てる。
- 乗り手の足の位置は、土台の首の後ろ。
- 土台及び乗り手は、危ない時には立ち上がらない。



手順①②



手順③



手順④⑤⑥

※指導者、土台及び乗り手は、立ち上がる際などに危険を感じたら、立ち上がらないなど演技を中止する。

手順

- ①土台の2人が向かい合ってしゃがみ、両腕で肩を組む。
- ②乗り手が土台の首の後ろ部分に足を乗せ、土台の上に乗る。
- ③乗り手は動かないように土台をしっかりとつかむ。

- ④乗り手が安定したら、土台は背中を立てたまま脚の力で立ち上がる。2人でタイミングを合わせる。
- ⑤土台が立ち上がり、安定したら、乗り手が立ち上がる。危ない場合は立ち上がらない。
- ⑥土台は乗り手の足が滑らないようにしっかり押さえる。3人で「A」の字のように真っ直ぐ立てられれば完成。

他の指導法も掲載しており、学校安全 Web よりダウンロード出来ますのでぜひご活用ください！